

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

2019年 4月 10日

報告者：友松知宏

1. 計画の概要

ブロック名	九州
計画区間	スタート地点：博多市地下鉄藤崎駅 ゴール地点：松浦西九州線 久原駅
実施期間	平成31年 3月10日(日)～ 3月14日(木)
概算歩行距離	136.0Km

2. メンバー表

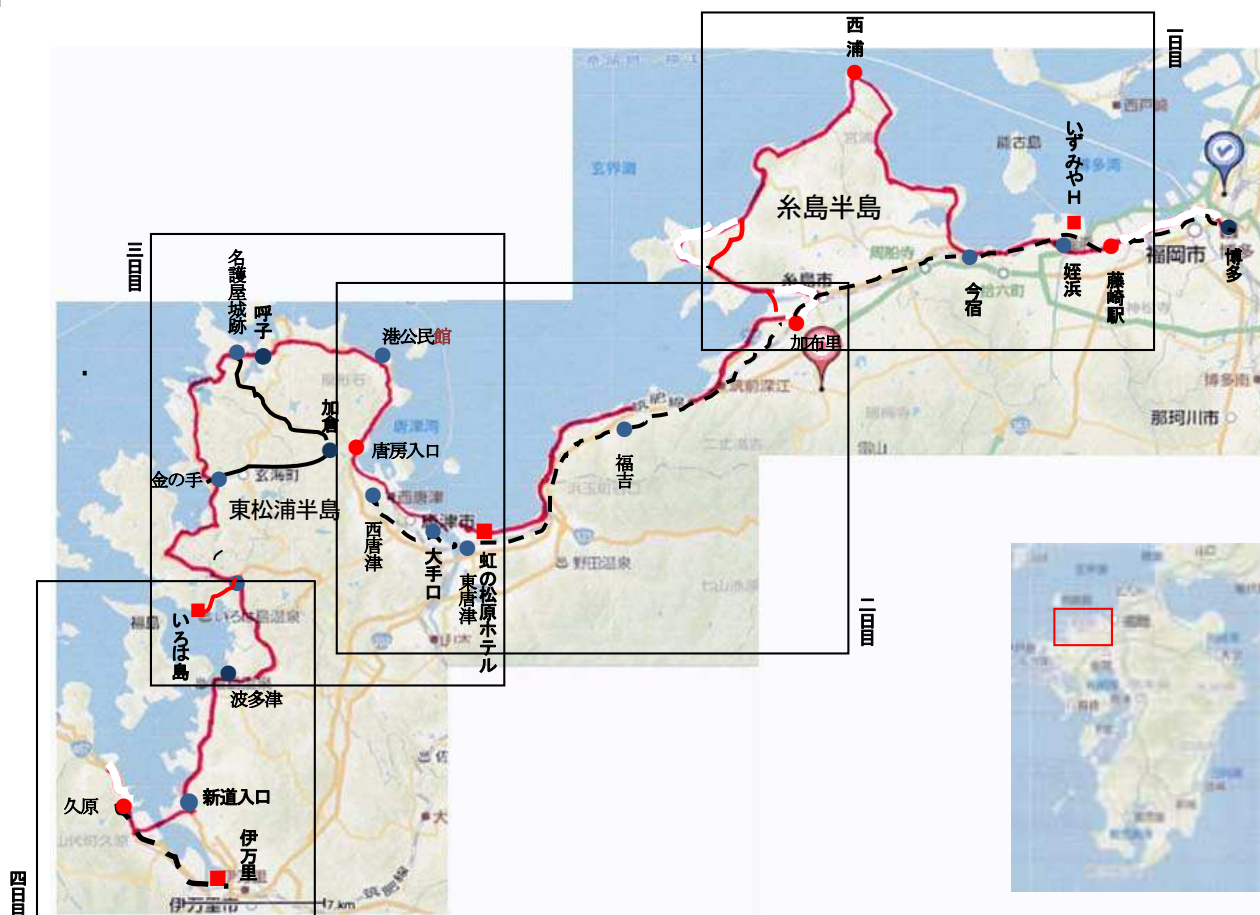
No.	役割・分担	氏名	ワゲル期	備考(ワゲルとの関係等)
1	リーダー・記録	友松知宏(78才)	8期	090-7774-8559 鳥取県
2	会計	友松和子(79才)		友松の妻 鳥取県
3				

3. 歩行計画概要

	月日	出発地～	到着地	歩行距離	歩行参加者	備考(宿泊)
1	3月10日	博多市地下鉄藤崎駅	～加布里駅	38.2		ビジネスホテルいずみや
2	11日		～唐房入口バス停	34.6		国民宿舎虹の松原ホテル
3	12日		～国民宿舎いろは島	37.6		国民宿舎いろは島
4	13日		～松浦西九州線久原駅＝伊万里駅	25.6		いまりホテル
5	14日		＝有田観光＝博多駅	—		レンタカーにて有田観光

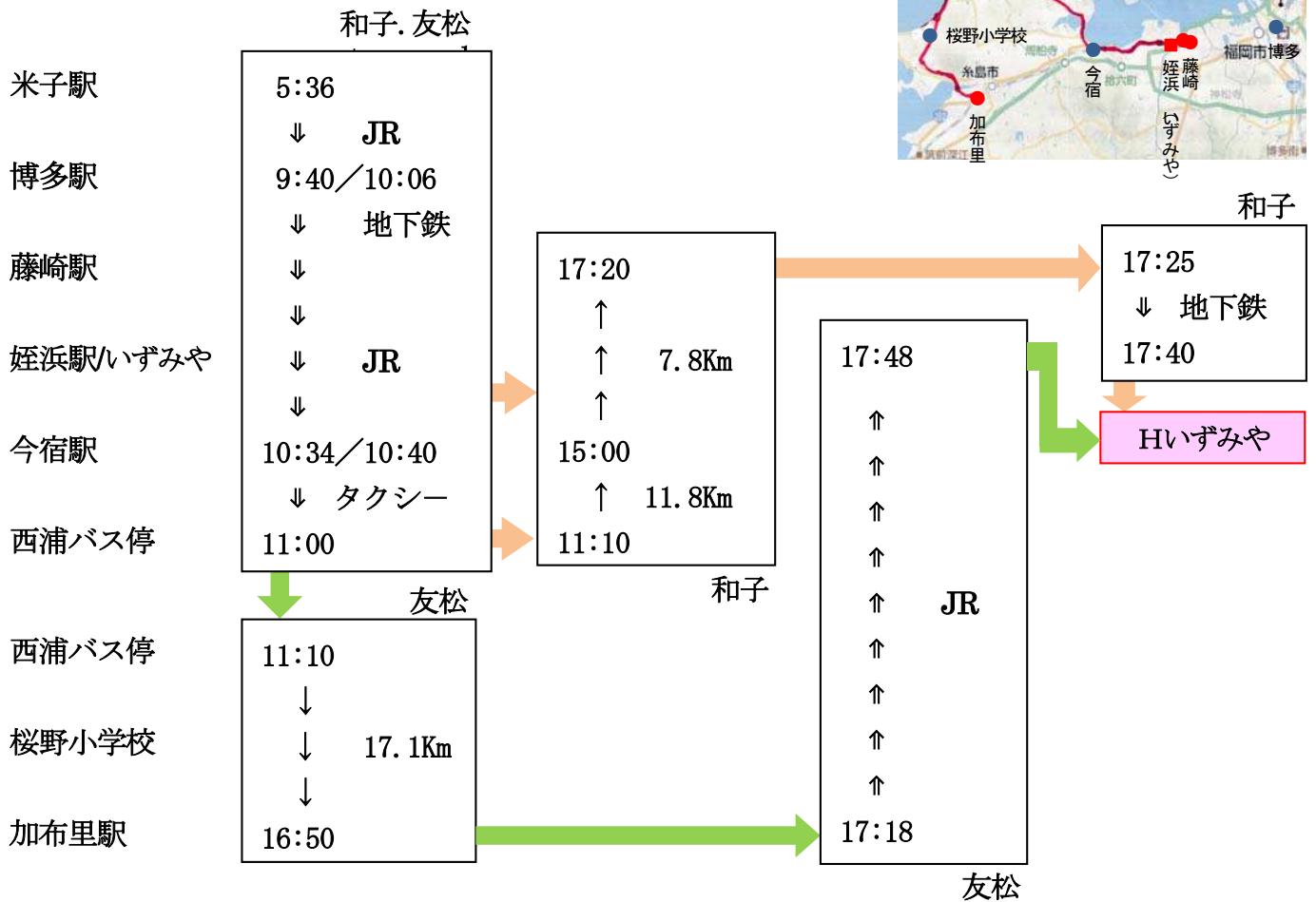
* 博多駅～藤崎駅 8Km を最終日に歩く予定であったが体調不良で歩き残した。次回に歩く。

4. 地図



5、詳細

3月10日（日）終日雨



友松

糸島半島は交通の便がなく、1日で歩かないと厄介なので途中を省き西浦まで直行。そこから友松は二見が浦経由で加布里へ、和子は今宿、姪浜(宿を素通り)経由で藤崎まで歩く。

二見が浦は夫婦岩のある観光スポットで同時に若者のビーチである。林立するレストハウスのセンスに感心。廃品回収業かと思うようなゴミの山や、ロンドンの2階建てバスがハウスであったり面白い。海岸を離れて田舎道に入っても若者ムードが続き、自然食品直売場の看板に「賑やかな春」という文字が逆さまに描かれていたりする。農薬が自然を破壊すると警告したレイチェル・カーソンの「沈黙の春」へのオマージュである。入ってみたかったがずぶ濡れで、店に迷惑をかけてはと覗くだけで通過。

桜野小学校の近くで由緒のありそうな石碑を見つけ、読んでいると60代と思われる男性が話しかけてきたが、雨のなかなのですぐにお別れした。

加布里から宿(姪浜)へ入る前に、少し先の唐人町まで歩くつもりであったが、予定のJRに間に合わず、遅くなるので宿に直行。和子は藤崎まで歩き、地下鉄で姪浜に戻り、宿で合流した。

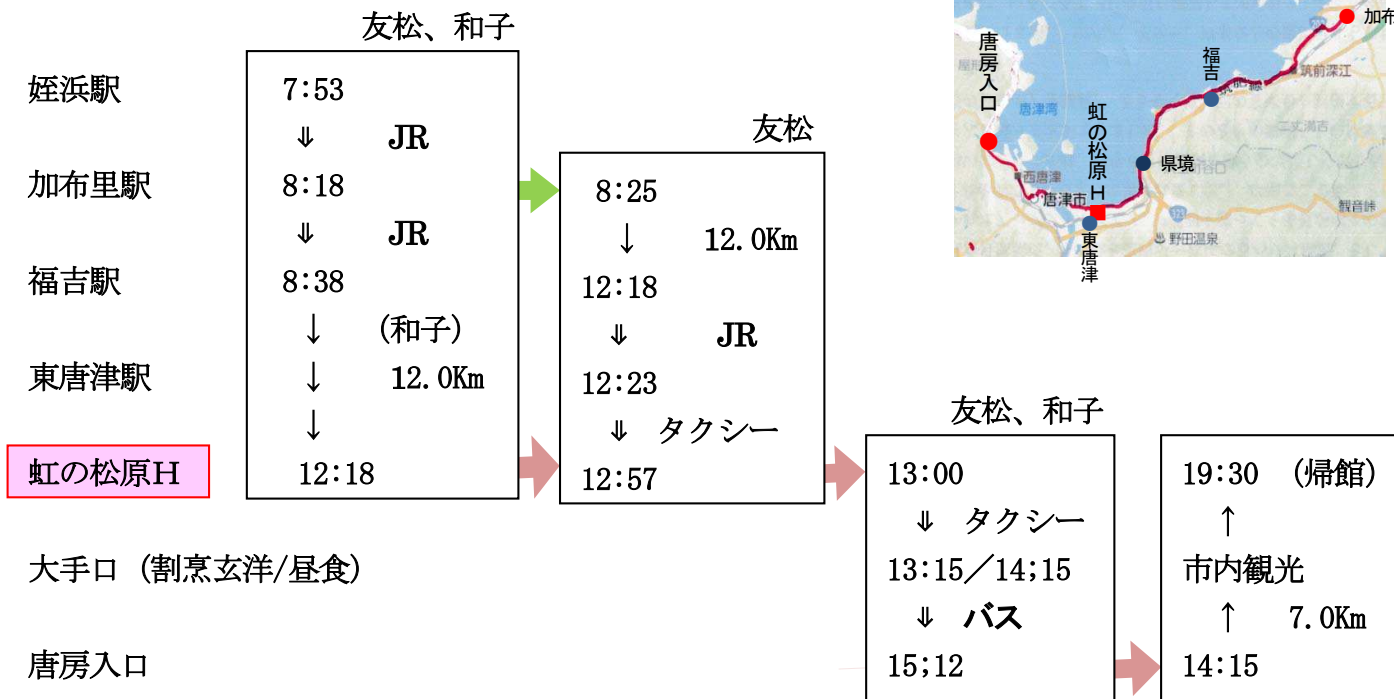
天神あたりの屋台で食事の予定であったが、雨に濡れて外出できず、コンビニ弁当を部屋で食べる。濡れた衣類に囲まれて、何となく重いムードで初日を終った。

和子

西浦バス停で知宏と別れ、雨のなかを出発。海は荒れ、風が強く、傘を握りしめひたすら歩く。

途中、牡蠣小屋があって立ちよりたかったが、一人で入るのも躊躇われ、素通り。人家もまばらで、車もたまに通るだけの海岸道路であった。

3月11日（月）晴れ



和子

福吉から唐津街道を歩く。県境の古い石碑を過ぎ、佐賀県の浜崎海岸を歩く。虹の松原の海岸沿いの道はよく整備されているが、途中から砂が噴き上げられ、踏み固められた砂道になる。サーフィンをする若者の姿を見た。東の浜海水浴場を過ぎ、虹の松原ホテルに到着。友松を待つ。



佐賀県/福岡県境

友松

前日歩いた加布里駅を出発。線路沿いから田んぼ道を横切り唐津街道を歩く。爽やかな晴天。前日歩いた糸島半島、これから行く東松浦半島がよく見える。この半島の松原（虹の松原）は平成12年のNHK「二十世紀に残したい日本の風景」で第5位に選ばれた美林である。

中継点福吉駅でJRに乗り、東唐津駅で下車。タクシーで今日の宿「虹の松原ホテル」へ行き、先着の和子を拾い、唐津市内へ移動。運転手さんの案内で和風レストラン玄洋で食事。地獲れのアジの活き造り。再会を祝し、中ジョッキを半分分けて乾杯。なかなか良い店である。

食事を終え、街の中心（大手口）にあるバスターミナルへ行き、そこから今日の終点唐房入口へ行き、唐津まで歩いて帰る。



唐津駅前/唐津曳山像

日が傾いてきたが市内数か所、唐津神社などを観光。唐津は曳山（山車）が観光の目玉で、町内毎に山車をもっているが、残念ながら車庫が閉まっていたり現物を観ることが出来なかった。

唐津駅前北海道から来たという立派な身なりの紳士に話しかけられ、カメラのシャッターを押してもらった。

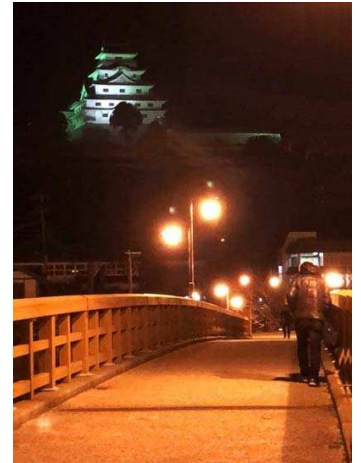
夕刻、バスターミナルのレストランでステーキとパスタで夕食。夜道を歩いてホテルへ帰館。途中で見た唐津城は昼と異なり、風情がある。唐津は街全体が美しい観光地である。時間がなく、駆け足観光であったのが残念。宿で前日濡れた衣類を洗濯する。



唐津城

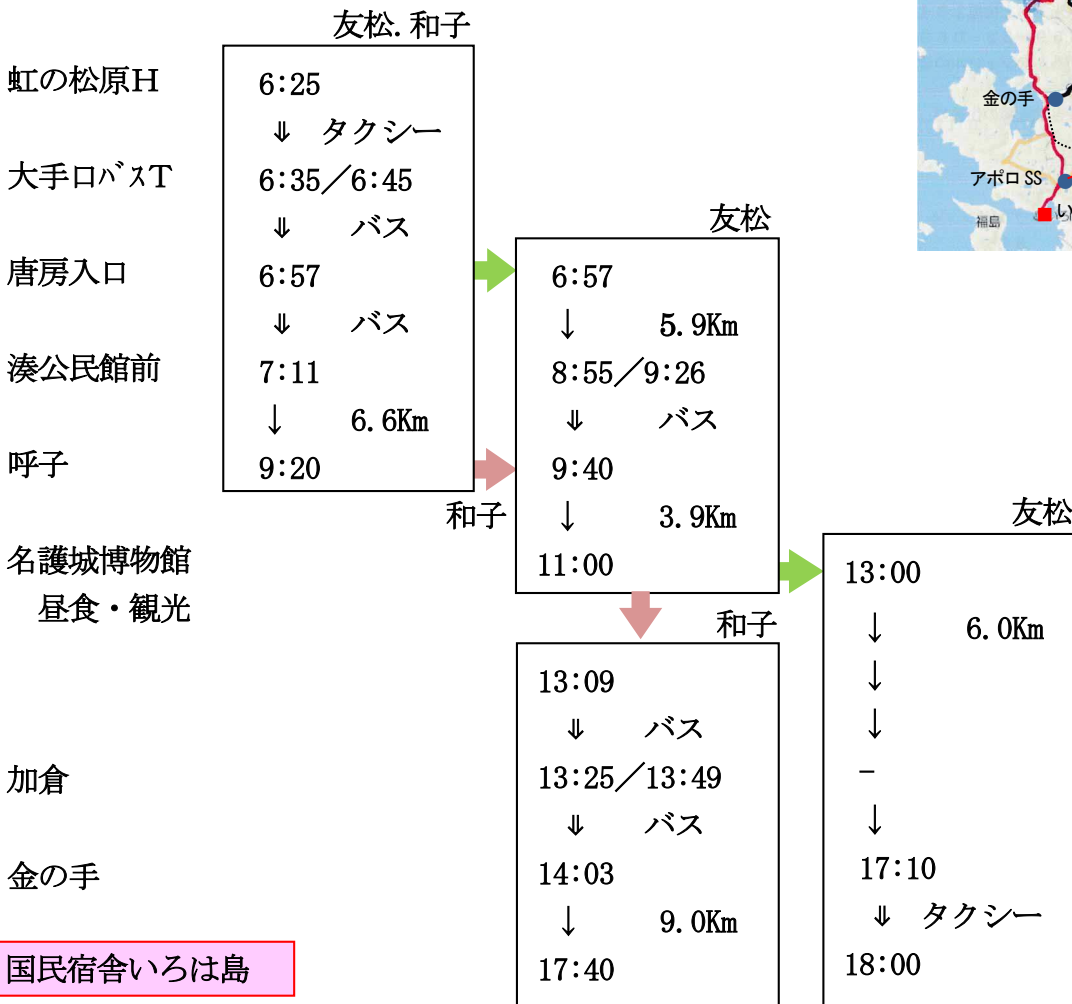


旧唐津銀行跡



城内橋から唐津城夜景

3月12日(火) 晴れ



友松

唐房入口までバス。そこから歩き湊公民館前でバスに乗車、終点呼子で和子と合流。更に歩いて名護屋城まで行く。切符売り場に荷物を預け、城山に登る。2時間必要という散策コースを30分で歩く。各展望台に風景の説明図が設置されていて、全国から動員された諸大名の陣地の配置が一目でわかる。朝鮮出兵(展示館には朝鮮侵略と表記)で全国の大名が動員され、ここに30万人の兵が集まった。入江という入江は軍船がひしめいていたはずで、事の是非はおいて、戦国大名の錚々たる顔ぶれが、この狭い地域にひしめいたことを思うと血が騒ぐ。役の途中で秀吉が亡くなり、出兵

は取りやめとなり、やがて豊臣家は没落し、次の関ヶ原に場面が変わる。歴史上重要な場所である。



名護屋城本丸跡（右奥）



名護屋城馬場跡



本丸跡より呼子大橋方面パノラマ
印辺が家康の陣跡

和子

金の手行きのバス13:09を逃がすと1時間待ちになるので、博物館の見学もそこそこに出発。秀吉の権力がこんなところに集結したのかと当時を想像する。加倉でバスを乗り継ぎ、金の手から歩く。いろは島への道中は棚田があつたりして島々の風景も良く、気持ちよく歩いた。

知宏到着ですぐに食事になったが、たいへんなご馳走。アジの活き造りから和牛の陶板焼き等々、途中でギブアップ。食事を残したことの無い知宏も、最後のオコゼのから揚げに箸も付けず残した。

友松

博物館で和子と別れ、金の手に向けて歩く。見学に時間を使い過ぎ、金の手からのバスの時刻に危なくなり、急ぐ。加藤清正、福島正則などの興味を惹く陣跡があるが素通り。足が痛みだし、アップダウンもあって速度が落ちる。始めは股関節に痛みがきて、それを庇っているうちに痛みがわき腹にあがってきて、杖に頼って歩くうちに足の指の付け根にきて、ピョコタンピョコタンで時速2キロにダウン。長年の経験で歩いてさえすればいつかは着くと信じ、棚田が美しい「恋人の展望台」で休んだりして、結局金の手には1時間遅れの5時過ぎになってしまった。

金の手から切木へ行くバスは一日16:10の1本しかなく、準備段階で宿の国民宿舎「いろは島」に問い合わせたときにはタクシーはないと聞いたので、宿到着が夜遅くなる覚悟をしたが、先行した和子から、「金の手でスーパーでタクシーはあるとの聞いた」との連絡をもらい、スーパーのレジの奥さんに尋ねると、「私が呼んであげる」と言って客の切れ目に電話をかけて下さった。タクシーを待つ間も、買い物の奥さん方が話しかけてくれるなど、失敗ではあったが、金の手の方の皆さんの暖かい気持ちに接して、心地よい思い出となった。足の痛みは強くなっており、宿までの残り10キロを強行したら、次の日が歩けなくなり、目的地まで行けなかったかもしれない。

夕食の質と量は圧巻。食べ残したオコゼのから揚げに未練が残る。景色もよい。

いろは島

佐賀県と福岡県の間広がる小島群の総称。47あることからいろは島と言われるようになった。部屋の窓からの夕日が見えるはずであったが、入館が遅れ、観ることができなかった。目の前に「花と冒険の島」があり、橋もあるが、時間の余裕がなく、島をみるだけ。



部屋からのいろは島風景



花と冒険の島へ渡る跳ね橋

2月13日(水) 晴れ

友松、和子

国宿いろは島	8:20 ↓ タクシー	
アポロSS	8:30 ↓ タクシー	和子
波多津	8:50 ↓ 8.7Km	8:10 ↓ 12.0Km
新道入口	12:39/12:50 ↓ 4.9Km	11:36/12:31 ↓ バス
久原駅	15:25/15:39 ↓ JR	12:50
伊万里駅	15:53 ↓ 0.5Km	
いまりホテル	16:10	



和子

計画では、最初のバス停波多津までの12キロを二人で歩く予定であったが、タクシーが見つかったことと、知宏の足の調子が思わしくないのでタクシーで友松は波多津まで行き、そこから歩き、和子は前日通ったアポロSSまで相乗りし、そこから波多津までを歩くことにする。道が山中のためアップ・ダウンがきびしく、時折木々の間から海が見える程度で、面白くない。

波多津から新道入口までバス、知宏と合流。風が強かったが見晴らしがよく楽しかった。

友松

足は心配したほどには痛まないが、ゆっくり目に歩く。新道入口近くでスマホのようなもので樹上を撮っている作業衣の20代の女性に出会い、何をしているのか声をかけた。電力会社の人らしく、メーターを記録しているとのこと。暫く立ち話。明るいげんきなお嬢さんで、会話で元気回復。待ち合わせ予定の新道入口に先に到着。20分ほどで和子到着。最後の目的地久原へ向かう。

途中、伊万里湾大橋を通過。橋のもとに伊万里焼のモザイクアート。さすが伊万里。こんな人通りのない場所でも地元のPRに努めている。橋を下って、菜の花が咲く久原駅に到着。中学生等と仲良くなり、メッセージを書いてもらった。

松浦西九州線で伊万里まで行き、駅近くのビジネスホテルいまりに投宿。食事は隣のラーメン屋。



伊万里大橋



伊万里焼のモザイクアート



今回の終点 久原駅

2月14日(木) 曇り

いまりホテル

トヨタレンタ

泉山磁石場
／有田歴史民俗資料館

ポーセリンパーク

加布里

二見が浦

今宿

トヨタレンタカー(博多)

博多駅

伯耆大山駅

7:40

↓

7:50

↓

レンタカー

8:45

9:10

↓

レンタカー

10:00/11:00

↓

レンタカー

13:30

↓

レンタカー

16:35

17:10

// JR

21:30 帰宅



泉山磁石場跡と有田歴史民俗資料館

ホテルから300mほどのトヨタレンタリースで軽自動車を借り、有田市へ向かう。歴史民族資料館が9時開館なので先に隣接する泉山磁石場を見学。江戸時代初期、朝鮮から来た陶工が鉾脈を発見し、ここで有田焼が始まった。今は天草で良質のものが採れ、ここでは採掘していない。

9:00に入館。敷地内に磁石粉碎場、赤絵付け窯などが再現されている。資料館の展示に交じって鳥取県の旧家近藤家が注文し納品された初期の有田焼製品とそれらの納品書などが展示されており、びっくり。撮影禁止の張り紙がないのを幸い、1枚撮らせて頂いた。

因みに、近藤家は映画「絶唱／浅丘るり子、小林 旭」のモデルとなった旧家で、同町内の大山榊水には歌碑が建っている。



泉山磁石場跡



磁石粉碎場



赤絵付け窯



近藤家から寄贈の初期の有田焼

資料館の後、ポーセリンパーク(有田焼のテーマパーク)へ行く。

ポーセリンパーク

1993年。香蘭社、有田の有志企業や個人が出資して、姉妹都市ドイツ・マイセンのツヴィンガー宮殿を模した宮殿を中心にした公園を造り、有田の魅力を国内外に発信するポーセリンパークをオープンした。ポーセリンは英語で磁器、つまり「磁器の公園」である。

400年におよぶ有田焼の歴史の中でも貴重な作品の数々が展示されており、なかでも1870年代のウィーン万博に出展され、世界中を驚かせた高さ182cmの大花瓶(右写真の奥)は圧巻。そのほかにも初期有田焼、古伊万里・柿右衛門・鍋島藩窯様式をはじめとする江戸・明治の最盛期までの作品が展示されている。売店で友松はオランダ人風俗を描いたマグカップを、和子は小鉢と小皿を買った。



ポーセリンパーク／ツヴィンガー宮殿



ツヴィンガー宮殿正面入口



宮殿内部(観光協会 HP より)

有田での予定を切り上げ、レンタカーのまま、初日雨のためゆっくりできなかった糸島半島を經由して博多に戻り、山陽新幹線、伯備線経由で米子へ帰る。



西浦／二見が浦海岸

6、費用

	[2人分]	[1人分]
交通費		
米子／博多往復	53,350円	26,675円
JR、バス、タクシー	13,050円	6,525円
レンタカー	12,874円	6,437円
ガソリン、高速道路	1,500円	750円
合計	80,774円	40,387円
宿泊費	48,240円	24,120円
飲食費(昼食等)	16,250円	8,125円
雑費(入館料等)	1,500円	750円
合計	146,764円	73,382円

以上